



令和2年度特集展示(会期：令和2年5月19日(火)～7月12日(日))

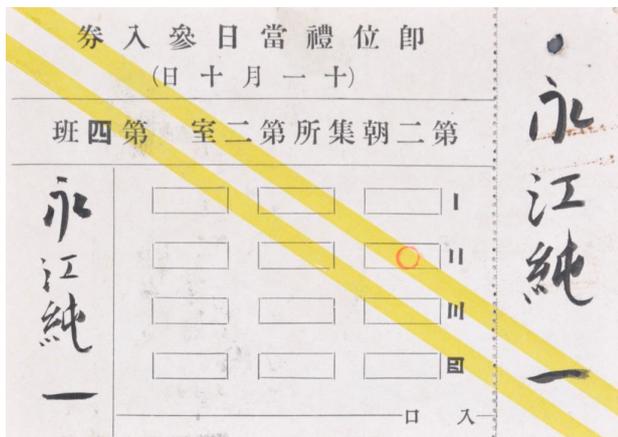
即位の大礼と福岡県

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

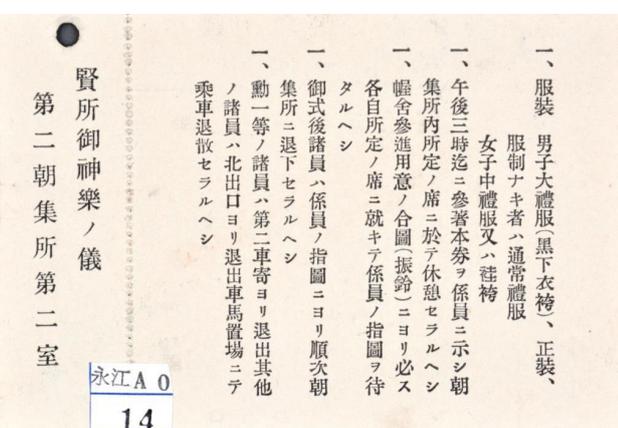
はじめに

昨年5月、わが国では新天皇陛下が即位され、新たに令和の時代が始まりました。即位に伴いさまざまな皇室儀式が執り行われ、宮中行事に対する関心も高まりました。

天皇即位に際しての一連の儀式を、即位の大礼(または御大礼・御大典)といいます。平成と令和の即位の大礼は、東京の皇居で行われましたが、戦前は京都御所で行われるとされており、大正天皇と昭和天皇の大礼は京都で開催されました。本展ではこの二つの即位の大礼に関する史料から、即位の大礼の一端と、福岡県との関わりについてご紹介します。



即位礼当日参入券(当館蔵)



賢所御神楽ノ儀参入券(当館蔵)の裏面

1 大正大礼の世界

まず、大正4年(1915)に執り行われた、大正天皇の即位の大礼に関する史料を紹介します。この大礼には、当時福岡県選出の衆議院議員であった永江純一も、参列を予定していました。そのため永江のもとには、当時大礼を所管していた内閣の大礼使などから、大礼や関連行事に関するさまざまな案内状などが送られてきました。しかし、永江は大礼前に体調を崩し、結局参列することはありませんでした。そのため永江のもとには、本来は大礼使に回収されるものも含め、こうした案内状などが未使用のまま残され、後に永江文書の一部として、九州歴史資料館に収蔵されました。

たとえば「即位礼当日参入券」は、儀式の一つ即位礼の入場券です。参入券は儀式ごとにありますが、裏面には当日の注意事項が書かれていました。即位礼翌日の賢所御神楽ノ儀の参入券の裏を見ると、服装は男性の場合、官吏や軍人は当時定められていた大礼服、国会議員など服制がない者は通常礼服(燕尾服)着用とし、女性は宮中の服装であった桂袴などが指定されています。さらに、この参入券を持って午後3時までには集合し、その後は鈴の合図で進行すると記されていました。

また「参列諸員案内図」(裏面に画像を掲載)は、儀式が行われる京都御所とその周辺の図面です。御所がある京都御苑全体の見取り図に加えて、儀式が行われる紫宸殿や大嘗宮、参列者の控室となる朝集所は拡大図もありました。さらに参列者の出入りの動線や、参入に用いた車両の駐車場所も記されており、儀式当日の参列者たちの動きがわかる資料となっています。

この他にも、大礼に合わせて運行された参列者用の特別列車に関する資料や、天皇の東京出発から帰還までの一連の予定を記した資料、さらに大礼に合わせて販売・実施された記念品・記念イベントの広告なども数多く含まれていました。ちなみに記念品は福岡県内でも製作されており、那珂川市の宮の前遺跡では、この時に当時の飯塚町で製作されたと考えられる土師器の坏が出土しています。

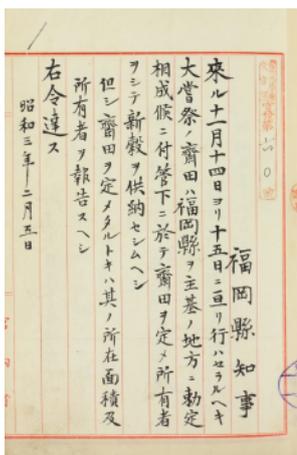
2 昭和の主基齋田

昭和3年(1928)、昭和天皇の即位の大礼が執り行われました。即位の大礼では、京都御所の紫宸殿(戦後は皇居宮殿の正殿)で行われる儀式に続き、大嘗祭が行われます。大嘗祭とは、仮設の大嘗宮に設けられた悠紀殿・主基殿の中で、天皇がその年に獲れた米などの新穀を供えて自らも食する儀式で、古代より長い伝統を有します。この時、主基殿で供される新穀の栽培地(主基の地)に選ばれたのが福岡県でした。

福岡県では主基の地に選ばれた後、実際の齋田を当時の早良郡脇山村、現在の福岡市早良区に選定し、その後も齋田の運営と新穀供納に関するさまざまな業務を担いました。この時の業務は、「主基齋田事蹟」(福岡共同公文書館所蔵)という全17冊の簿冊に綴じられています。「主基齋田事蹟」には、福岡県が主基の地に選ばれたことを当時の宮内大臣から福岡県知事に通知した文書をはじめ、齋田の選定、予算の策定など、さまざまな公文書が残されています。

また大礼では、国と県でそれぞれ『昭和大礼要録』、『昭和主基齋田記録』という記録図書を作成し、さらに記念の写真帖も作成されました。これらの資料からは、齋田での実際の風景を見ることができます。

昭和の主基齋田では、太田主と呼ばれる田の所有者をはじめ、さまざまな人々が栽培の作業に関わり、半年以上にわたる農作業の後、無事に新穀を納めることができました。また主基の地となった福岡県からは、新穀以外にもさまざまな特産品も宮中に納めました。



主基齋田事蹟
(福岡共同公文書館所蔵)



主基齋田での田植(上)と抜穂の儀式(「大嘗祭 主基齋田写真帖」より、福岡共同公文書館提供)

3 新嘗祭での粟の献穀

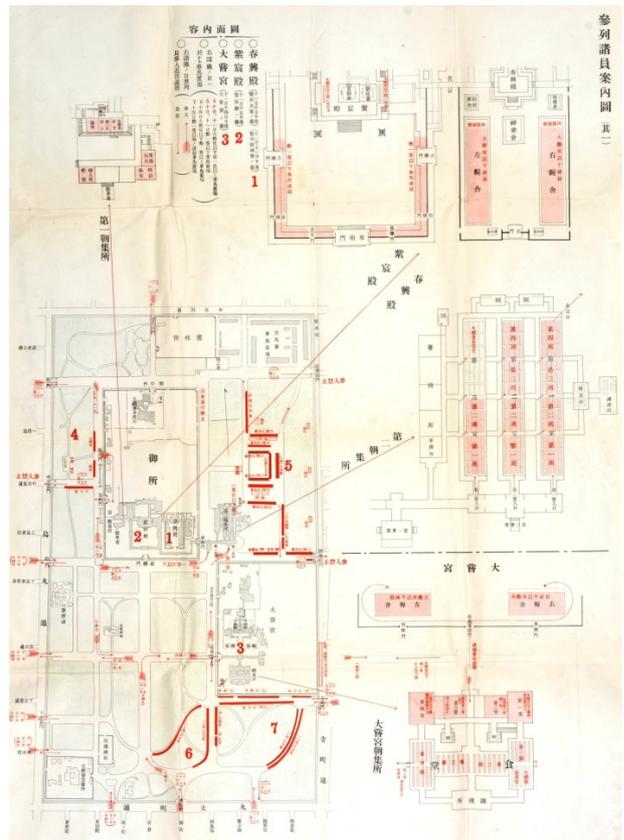
大嘗祭は、一人の天皇の在位期間中、即位の大礼の年に一回だけ行われる特別な儀式ですが、天皇が宮中において新穀を供えるという儀式自体は、毎年行われています。秋に開かれる新嘗祭です。この新嘗祭で用いられる新穀は宮中で栽培されるほか、全国の都道府県からも米と粟が献上されています。

昭和4年の新嘗祭では、当時の直方町(現直方市)の農家から、粟を献上(献穀)することになりました。この時、献穀を担った農家の家には、当時の献穀に関する資料が大切に受け継がれ、今年当館に寄贈されることになりました。資料には献穀する粟の栽培を福岡県が囑託した文書や、「献穀」と記された唐櫃、献穀後に県から贈られた3枚の銀杯などがあります。

これらの資料からは、新嘗祭の作物を納めることを一世一代の榮譽と受け止め、献穀に当たっていた耕作者の姿が思い浮かべられます。

※粟献穀に関する資料は、6月9日(火)より展示の予定です。

(学芸調査室 渡部邦昭)



参列諸員案内図(当館蔵)

編集 発行: 令和2年5月19日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>

